

加州ニテコレヲ上品トス、一種パンゴハ形圓ニシテ厚シ、加州ノ産ナリ、一種アカハレハ肉厚シ、パンゴヨリハ薄シ、右片色黒シ、子ノ色ウツリテ赤色ヲ帶ブ、子大ナリ焼キ食フ、上品ナリ、然ドモ人ヲシテ酔ハシム、一種比丘尼ガレハ一名ナメタガレ、仙臺肉フクレテ甚柔ナリ、乾シテモ硬クナラズ、下品ナリ、夏出一種譽田ガレハ一名カツタイガレ、仙臺ヨリ出一種サカムカヒハ極大ナリ、佐州ヨリ出一種メクラガレハ目甚小ニシテ見ヘガタシ、攝州ニ出、此外ニ但馬ガレ、因幡ガレ、ヤマブシ、マルガレ、シロミヅガレ、サトガレ、ヒダリガレ、水戸ガレ、等品類尙多シ、一種木葉ガレハ一名モミチガレ、岡田ガレ、泉州小ヒラメ、ヲチバガレ、阿州シネ、丹後此ハヒラメノ小ニシテ、寸許ヨリ二寸許ナルヲ、頭尾背腹相重子テ乾カス者ナリ、隱州讚州、阿州淡州、泉州ヨリ出一種モンゾウ、攝州ハ一名ユバハ、同上小ヒラメヨリ形狹シ、

〔後水尾院當時年中行事下〕一まゐらざるものは、王餘魚是は俗にかれひとかいふ御まな也、いかなるの魚、王餘魚と書といふ事を、本草綱目には、餘魚と云ふも、云とみえたり、吳王闔閭の魚、餘を食して、のこりを水に投ぜられしに、化して魚となりたるよし也、さうらび王餘の心は、たがひもやあらす、其上、餘魚は注體かれひとばみえず、しろうたをとかいふもの、又か、大槪、叶ふやうなれど、長四五寸などやうにみえたり、これまた相違せり、いかなる魚にか、又か、大槪、叶ふ一所に、おのりて付て、そのた、也、異もの、い中に、類せず、ことやうにも、女房などあればこそ、

緋魚

〔書言字考節用集五〕緋魚氣形

〔和爾雅六〕龍魚緋魚、興化府志云、其色如緋、有、一種、紅魚、全緋、一種、新婦魚、近、緋、

〔物類稱呼二〕阿古あこ、加賀國にては、ちめと稱す、此魚播磨攝津國などに稀に有、冬月藻魚の大なる物をあこと呼て賞翫す、和漢三才圖會に見えたり、あこは赤魚也と云

〔本朝食鑑八〕江海有鱗、赤魚アカハレ、訓、阿、加、乎、

釋名俗曰、赤魚、如、火、故、

集解、頭大口、濶眼亦不小、形略似甘鯛、而大尾、無岐、細鱗、長鰭、全體俱赤、如丹、肉脆白、而味淡美、處處雖